

<応用情報試験処理試験 講評>

【午前】

以前のソフトウェア開発技術者試験の出題範囲は、ほとんどテクノロジー系に集約されています。新制度の実施背景を考慮すれば、今回の分野別の出題配分は今後も同様と考えます。テクノロジー系の問題は、ソフトウェア開発技術者試験とほぼ同類同等レベルですが、ディレクトリトラバーサル（問 42）、オープンソースソフトウェアの具体的種類（問 21）、パンくずリスト（問 25）など、新しいキーワードも数問出題され、常日頃からの学習の必要性を感じさせています。

マネジメント系とストラテジ系は、公表された「応用情報技術者試験（レベル 3）シラバス」に記載されている用語を理解していれば、解ける問題が殆どでした。基本情報技術者と同じ問題が出題されていることもあり、ここ数回は問題の難易度にムラのある分野だと予想します。

今回の試験を分析すると、下記のようになります。テクノロジー系の出題が少なくなったことで、技術要素のネットワーク、データベース及びセキュリティは、基本的な問題の出題に留まりました。

分野	分類	出題数	全体比率
テクノロジー系	基礎理論	14	18%
	コンピュータシステム	14	18%
	技術要素	11	14%
	開発技術	10	13%
マネジメント系	プロジェクトマネジメント	5	6%
	サービスマネジメント	6	8%
ストラテジ系	システム戦略	6	8%
	経営戦略	8	10%
	企業と法務	6	8%

以前のソフトウェア開発技術者試験の出題範囲に、マネジメント系とストラテジ系が加わり出題範囲は広いのですが、複雑な計算問題などは少なく、出題範囲の用語をまんべんなく理解した人には易しい感じ、テクノロジー系を重点に学習をした人には、マネジメント系とストラテジ系問題が難しく感じた試験だと推測します。

全体的な時間難易度は「やや易しい」と分析します。

【午後】

午後の出題は次の内容でした。

マーケティング戦略の立案

チェイン法のアルゴリズム

SWOT 分析

災害復旧対策(ディザスタリカバリ)

DHCP の利用

注文管理システムの設計と実装

携帯端末の省電力

通信販売用 Web サイトの設計

ファイアウォールの設定

営業支援システム開発プロジェクトの管理

SLA (Service Level Agreement)

DB 監査ツールを利用したシステム監査

[前半 問 1 と問 2 で 1 問選択]

経営戦略 (問 1) は、マーケティング戦略の用語と立案プロセスの正確な理解が必要で、基礎知識の有無が得点に直接影響する問題です。プログラミング (問 2) は、初期のソフトウェア開発技術者試験の午後Ⅱで出題されたプログラミングと同等レベルでした。適切な時間配分が後半の得点差に影響したのではないかと推測します。

[後半 問 3 から問 12 で 5 問選択]

問 4 から問 6、問 8、問 9、及び問 11 は、ソフトウェア開発技術者試験の午後Ⅰと同等レベルなので、過去問題を中心に学習した人なら、自信を持って解答できたのではないかと推測します。

問 3、問 10 及び問 12 は戦略立案・コンサルティング技法、プロジェクトマネジメント、システム監査分野の問題です。問題の条件や環境に複雑なものはなく、問題文をよく読み、条件や環境を元に判断すれば、解答に迷う設問は少ないと推測します。また、選択形式の設問も多いので、自分の解答との検証作業が容易にできたのではないかと感じます。

全体的な時間難易度は、前半 1 問に要する時間配分が難しいため「やや難」と分析します。